



KasugaLife
Summer Issue 2021

p.2 授業紹介

p.4 主専攻紹介(klis)

知識科学主専攻…p.4

知識情報システム主専攻…p.4

情報資源経営主専攻…p.5

p.6 合格体験記

筑波大学の入試方法について…p.6

情報メディア創成学類…p.7

知識情報・図書館学類…p.11

p.14 生活体験記

春日宿舍…p.14

GlobalVillage…p.15

アパート…p.16

自宅通学(宅通)…p.17

こんにちは。この度は筑波大学に興味を持ち、この「かすがらいふ」を閲覧していただきありがとうございます。

この「かすがらいふ」はその名の通り、筑波大学春日エリアから名付けられたものです。春日エリアを拠点とする学類は、情報メディア創成学類(mast)と知識情報・図書館学類(klis)の2つのみです。また本学と離れた場所に位置するということもあり、情報が入手しにくいと感じている方もいらっしゃるかもしれません(実は筑波大生の中でも春日エリアに馴染みが無い方が多く、同じ筑波キャンパスに属しているながら「春日キャンパス」と言われることもしばしば…)そこで本誌を疑問解決、情報収集のツールのひとつとして活用していただければ幸いです。

本誌が受験生の皆様の大学選択に役立ち、並びに大学進学への努力の支えになることを願っております。

2021年度かすがらいふ編集委員会

授業紹介

図書館概論

この図書館概論ではその名の通り、図書館の機能や歴史など図書館に関する様々なことを幅広く学びます。また、授業担当の先生が北ヨーロッパやアメリカの図書館を専門に研究されている方であるため、欧米の図書館についての話や日本との違いなどの話も聞くことができます。図書館についての認識が変わりますよ。

必修科目ではありませんが、図書館や図書館司書に興味がある人はもちろん、今あまり興味がない人にもぜひ履修していただきたい科目です。

授業紹介

情報数学

情報と数学は密接に関わっています。これから先、情報学を学んだり研究したりする上で数学の知識が必要になってきます。

一年次に履修するこの授業は、主に高校でも習った集合と命題の応用、写像、行列とベクトルなどについて学ぶ、mastとklis両学類の1年次の数学系の必修科目です。

mastでは情報数学の他にも数学系の1年次の必修科目として春学期の線形代数と秋学期の微分積分があります。

授業紹介

知識情報概論

klisの必修科目です。知識は日々生まれ消えていきます。その中でも記録された知識だけが、時間や空間を超えることができます。この授業では知識とは何か、知識はどのように記録され共有されるのかについての様々な概念を学ぶことができます。

この授業は毎年klisだけでなく他学類の学生にも人気です。難しい概念でも先生が面白く分かりやすい例を用いて説明してくださり、とても楽しい授業です。

klis生はもちろん、是非klis以外の学生にも受講してほしいです。

授業紹介

情報メディア入門

UI（ユーザーインターフェイス）やプログラミング言語についての導入部分の講義が行われ、かつ担当教員5人全員が情報メディア創成学類教員であるからどのような研究室があるのかを知る機会にもなります。また、線形代数の授業よりも先に行列の説明がある授業です。

必修科目ではありませんが、ぜひこの講義を受けて将来、4年次の卒業研究などで研究したいことを考えてほしいと思います。

授業紹介

プログラミング入門

mastとklis両学類での1年次の必修科目です。この科目ではpythonという言葉勉強します。今までプログラミングをしたことがない人、少しだけしか触ったことがない人でも簡単な処理を行うプログラムを作成できるようになることが目標の授業なので、全くの未経験者でも安心して授業を受けることができます。逆に、元々ある程度pythonに精通している方には少し物足りない部分があるかもしれません。

2020年度の授業ではジャンケンプログラムを作ったり、簡単な図形を描画したりと、とても楽しく授業を受けることが出来ました。

授業紹介

コンテンツ概論

コンテンツ概論は1人1作品、90秒~3分前後で何かしらをプロモーションする映像を作る授業です。標準履修年次が2年の授業ですが、1年生で受講する学生も多くいます。

この授業では、単に撮影や編集を学ぶだけではなく、企画立案や撮影許可の申請など、映像を作るのに必要な一切切を体験できる稀有な授業です。授業時間外に当てる時間はどうしても多くなってしまいますが、それに比例して達成感も多いと思います。映像制作に興味のある学生は是非受講してください。

授業紹介

知識情報演習

知識情報演習（通称：CJE）はklisの必修科目であり、I,II,IIIと連続して開講されているものです。筆者自身2年生であるため、まだ半分しか受けてはいませんが、今まで学んだ内容がとても魅力的でした。

CJEではOPAC（OnlinePublicAccessCatalog；図書館などで皆さんも一度は使ったことがあるのではないのでしょうか）の構築方法や、レファレンスサービスのための文献の探し方など、klisの名にふさわしい図書館についての科目となっています。図書館に興味ないんだけどなと思った方もいるかもしれませんが、しかしOPACの構築はプログラミングであり、これを優しく学ぶことができるし、文献を探すことは自分の利益になるという、図書館以外の分野でも応用できることも学ぶ科目です。ぜひ多くの人に興味を持ってもらいたい魅力のある授業です。

主専攻紹介

知識科学主専攻

「人間」に注目する主専攻です。知識や知識共有の本質を探り、それらを活用する能力を修得します。この主専攻では、知識の本質や人間の情報行動、人間がどのように知識を獲得するのか、といった人文社会的なものから、データを分析して知識を抽出する手法や知識の探索技術などといった理工学的なものまで、とても幅広い分野を研究対象としています。このような幅広い研究対象から、自分が研究したいと思ったことに、突き詰めて取り組むことができる主専攻と言えるでしょう。

専門科目紹介

○知識科学実習A・B

この授業は知識科学主専攻の先生方がオムニバス形式で講義を行うものです。主にグループワークで実習が進められ、卒業研究だけでなく、卒業後社会人になっても役に立つ力を身につけることができます。

○知識論

哲学の観点から「知識」を取り扱う授業です。哲学において「知識」がどのように捉えられてきたか、現代哲学において「知識」に関するどんな問題があるのかを学ぶことができます。

○データマイニング

大量のデータから規則性を探し出すための手法である「データマイニング」について、典型的な考え方やその方法について学ぶ授業です。データマイニングに必要な基礎知識から応用まで学ぶことができます。

○テクニカルコミュニケーション

テクニカルコミュニケーションとは、専門情報を正確に分かりやすく伝えることを意図した筆記・口述の方法です。テクニカルコミュニケーションを意識した文書の企画・構成・表現設計に必要とされる知識や技術を、実践的に学びます。また専門職としてのテクニカルコミュニケーターの業務や活動を、演習を通して学びます。

主専攻紹介

知識情報システム主専攻

「情報技術」に注目する主専攻です。インターネットなどの情報技術の進歩によって、私たちは膨大な知識と情報を共有しています。それらを有効に効率よく扱うための技術が必要です。この主専攻では、知識や情報を有効に共有・活用するための高度な技術を修得します。特に大きな強みとしてプログラミングの演習が充実していることが挙げられます。しかしそれだけでなく、知識情報の共有や、データベース、情報検索、デジタルライブラリといったさまざまな知識情報システムについて学び、研究することができます。

専門科目紹介

○知識情報システム実習A・B

実践形式の講義で、グループワークで実際にシステムを開発・構築します。システムをグループで協力しながら開発し、システムを実現するための実践的な知識・技術を身につけることができます。

○Webプログラミング

Webの基本原則からサーバ側プログラミングの基本原則と実際、セキュリティ問題について学びます。実習や課題で実際にプログラムを作成することもあります。

○データベース技術

データベースシステムを実際に構築する際の諸技術と必要な知識について、演習を交えながら学びます。また実際にシステムを構築していく過程で遭遇し得るさまざまな問題に関して、必要な解決能力を身につけます。

○メディアアート

近年メディア装置の発明を伴う芸術活動が盛んに行われています。この講義ではメディアアートに関する歴史やその技術について学びます。また実際にメディアアートの制作にも取り組みます。

主専攻紹介

情報資源経営主専攻

「社会」に注目する主専攻です。知識情報を提供する環境や社会の整備、経営や制度についての知識や手法などを修得します。何年か前までは「情報経営・図書館主専攻」という名称だったことから分かるように、3つの主専攻の中で最も図書館に関係がある主専攻といえます。しかしそれだけではありません。現在この世界には、多様な情報が大量に存在しています。それらの情報を蓄積・整理し提供する環境があるからこそ、私たちは適切な情報を有効に利用することができます。この主専攻ではそのような情報環境の整備、それに関わる社会的制度の設定などについて学び、研究することができます。

専門科目紹介

○情報資源経営実習A・B

情報資源経営主専攻分野における研究テーマを選択し、それについて学術文献リーディングやプレゼンテーション、グループごとの共同研究を行います。図書館情報学分野について興味・関心を高め、基礎知識や研究の基礎的なスキルを身につけます。

○図書館論

図書館について、読書・読者との関係、国際比較、近現代などさまざまな角度から学び考える講義です。それらを通して、図書館を理解するために役立つ基本的な概念や研究について知ることができます。

○情報法

ネットワーク社会で新たに発生するようになった法的問題に接しながら、法律学の体形に関する概念や法理に基づいて、現実に発生している諸問題の現状とその法的対応について学びます。インターネット上の権利侵害やAIの法的な問題などについての講義を受けることができます。

○情報サービス構成論

レファレンスサービスは、図書館や情報サービス機関において提供されるものです。この講義ではレファレンスサービスを対象としてその目的、構成、方法、多様な情報源の利用法、参考調査図書館の組織と運営などについて学びます。そして図書館情報学と経営学の視点から情報サービスの構成方法を考察できる視野を養います。

合格体験記

筑波大学の入試方法について

筑波大学には様々な入試形態があります。そのなかでmastとklisで実施している入試形態について少し紹介します。詳しくは募集要項をご覧ください。

総合選抜 [前期日程]

総合選抜は「文系」「理系Ⅰ」「理系Ⅱ」「理系Ⅲ」という区分で学生を受け入れる入試形態です。共通テストと個別学力検査が課されます。合格・入学後、1年次は総合学域群に所属し、2年次からそれぞれの学類・専門学群に進学するようになります。2年次からmastでは18人、klisでは45人を受け入れます。

学類・専門学群選抜 [前期日程]

合格・入学後、1年次から学類・専門学群に所属します。共通テストと個別学力検査が課されます。mastの定員は20人です。klisでは実施しません。

学類・専門学群選抜 [後期日程]

個別学力検査は課されず、共通テストと面接や小論文などの実技検査を用います。mastでは実施しません。klisの定員は10人です。

推薦入試

所属高校等からの推薦に基づき、共通テストを課さず、11月に試験を実施、年内には合格が決まる入試形態です。（他学類には共通テストを課し、実施時期も異なるところもあります。）実技検査では面接や小論文が課されます。klisの面接ではビブリオバトル（ゲームスタイルのグループディスカッションで気に入った本の紹介を行う形式）を用います。mastは8人、klisは40人の定員です。

アドミッションセンター入試

AC入試とも言い、共通テストを課さず、10月に試験を実施、年内には合格が決まる入試形態です。第1次選考の書類選考と、第1次選考合格者に対する第2次選考の面接・口述試験で判定が行われます。mastの定員は4人、klisは5人です。

国際科学オリンピック特別入試

日本情報オリンピック（JOI）本選でAランクとなることで応募要件を満たす入試です。共通テスト等は課されず、エントリーシートと15分間の面接で判定されます。mastでは定員を若干名としています。klisでは実施しません。

国際バカロレア特別入試

IBディプロマ取得者を対象とする入学試験で、書類審査と面接、口述試験が課されます。mast,klisともに定員を若干名としています。

私費外国人留学生入試

日本国籍を有しない者を対象とした入学試験で、小論文と面接が課され、日本留学試験の成績と合わせて総合的に判断を行います。mast, klisとも定員は若干名としています。

合格体験記

情報メディア創成学類 **学類・専門学群選抜** [前期日程]

志望理由

高校生時代からプログラミングをやっていたこともあり情報系の学部に進学したいと考えて大学を探していました。その中で情報メディア創成学類の、他の多くの情報系の学部とは違いメディアやコンテンツにも重きを置いた情報学を学べるというところに魅力を感じ志望しました。

共通テスト

共通テストの対策は11月から始めました。私たちの代は共通テストが始まった年ということもあり、共通テストの過去問は存在していませんでした。そこで物理、化学、地理はセンター試験の過去問を5年分くらい解きその後はひたすら共通テストの予想問題を15回分くらい解きました。

と、ここまでつらつらと対策を述べてみましたがこれが本当に効果があったのかはわかりません。というのも私は共通テストの数学ⅠAで数学Ⅰを間違えて45分間解いてしまうという大失態を犯したのです…

そのため自己採点では合計で700点を切り、共通テストリサーチではD判定を叩き出しました。

模試などの際によく言われる注意事項(「マークずれに気をつけろ」や「数学ⅠAと数学Ⅰを間違えるな」とか)は実際にしかも本番で起こります。この体験記を読んでいる人もまさか自分には起こらないだろうと思っていると思いますが、本当に起こります。気をつけましょう！

二次試験について

数学については塾の教材と高校の教材、青チャートの周回を高校三年生の1年間はひたすらやっていました。過去問は、夏は数学力を鍛えるために筑波より少し難しい大学の過去問いくつか3年分ほど解き、夏の終わりから英数ともに筑波の過去問に取り掛かり、最新3年分を残して10年分の過去問を11月までに解きました。最新3年分は共通テスト後、二次試験までの1ヶ月間に解きました。

英語は本当に参考にしてほしくないのですが、苦

手意識が強かったため共通テストが終わるまで勉強していませんでした。共通テストが終わってからは基礎レベルの文法の確認とターゲットの単語を第一章から丸暗記して行きました。あとは筑波大学の英語には自由英作文が出題されるため、英作文は添削をしてもらっていました。ただ近年の英作文の出題形式が始まったのは比較的最近であるため、筑波大学の過去問だけでは英作文のサンプルが足りず、広島大学や北海道大学などの英作文で練習していました。

共通テストや私立の試験などで、もしかしたら試験本番で皆さん必ずどこかで大なり小なりうまくいかないことがあると思います。そういう時には焦りや不安の気持ちをうまく正の方向に転換して勉強へのエネルギーにしてみてください。そして本番は絶対に自分は受かるという気持ちで挑めば大抵受かります。

皆さんに来年お会いできることを楽しみにしています。

頑張ってください！

合格体験記

情報メディア創成学類 推薦入試

受けた理由

自分は大学選びにとっても悩んでいて具体的にやりたいことがないままだったのですが、mastを見つけたときに体に電流が走ったのでここを第一志望にしようと思いました。直感というのは何とも不思議な力なのですが、あの時の選択は間違っていないと思います。次に受験形態を選ぶ必要があります。私は内申点がなぜか良く、推薦の出願要件を満たしておりさらに、ほんの少し電子工作に触れたり、プロジェクションマッピングのお手伝いをしたりと、謎の経験があったのでこれは武器になるかなと思い推薦も受けてみようと思いと担任と相談したわけなのです。単純に試験を受ける機会が一回分増えるのでダメもとでも受けてみる価値はあると思います。あと、高校の最後の数か月を自分の好きなことに費やせるという夢も叶えられます。(これが非常にでかいです。)

受験対策について

私は小論文については過去問を解きまくっていました。試験は面接と小論文の2つです。

過去の小論文の問題は、英語で数学的なパズル問題が出るパートと日本語で論理的な記述を求められるパートに分かれていました。数学のパートに関しては問題のレベル的には難しすぎないのですが、なんといっても英語なのが辛い。恥ずかしい話、私は英語があまりにも苦手だったので大変苦労しました。ですが、難しい単語や専門用語にはちゃんと日本語訳が書いてあったりするので大筋がつかめれば、何とかできます。後半は論述メインです。年によって変わるのですが、せいぜい数百字程度を解答するものでした。

対策としては、問題を解いて担任に添削してもらって、特に論述部分は議論してもらってより良い解答に仕上げていくというやり方をしていました。

面接は三人の面接官と行います。時間はおよそ15分で数学の口頭試問(二問のうち一問を選択)を含みます。口頭試問は担任に、それ以外の面接はいろんな先生に対応してもらって対策していました。

いざ試験

それなりに緊張しながら面接会場に赴き、着席。小論文の試験が始まり冊子を開けてみると、なんと論理的な論述のパート(過去問の後半パート)がなく、その代わりすべて英語の数学的パズルの問題でした。英語が苦手なので、やばいかなと思いました。内容(タイトル)を見てみると知っている知識で解けるものが多かったのです。一つはクラスになぜかおいてあったパズル、さらにもう一つはたまたまYouTubeで見た思考パズルでした。あとは初見でしたが何とか出来ました。

面接会場は新型コロナウイルス感染症の影響でアクリル板によって仕切られていました。最初に口頭試問が行われたのですが、私はここで焦ってミスを量産しました…。落ち着けば解ける問題だったのですが緊張とは恐ろしいものです。時間もかなり使ってしまったのであとは自己PRでした。これはかなりまずいと思い、何とか挽回しようと超自己アピールしていました。何言ったかは覚えていません。

終わりに

私的に推薦は、ここが第一志望なら受けてみるべきと思っています。もちろん対策で受験勉強の時間は取られてしまうのですが、熱意とある程度の実力があれば、希望はあります。意外と何とかできるので、チャンスは逃さずに喰らいついていきましょう！

合格体験記

情報メディア創成アドミッションセンター入試

アドミッションセンター（AC）入試について

そもそもAC入試とは何かという話ですが、私個人の偏見を多分に含んだ言い方で表現すると、良い意味で変態的なオタクのための入試であると言えます。AC入試では学力審査はなく、自己推薦書、志望理由書と面接で評価されます。募集要項にも記載されている通り、何に問題意識を抱いていて、どんな過程を経て解決していったかという問題解決能力が一番に評価されます。

一次試験（書類選考）

一次試験では自己推薦書と志望理由書、調査書を提出しました。調査書は重要視されていないのに加えて、自身の成績がよろしくなかったのも、とにかく自己推薦書と志望理由書に自身のすべてを詰め込みました。自己推薦書は様式・枚数自由でどのように書いてもよかったので、とにかく楽しくて、楽しくて仕方がなかったです。自身が伝えたいことが次から次へとあふれ出てきてしまい初稿は1万字以上ありましたが、分量が多くても読みにくいだけなので最終稿では8000字ほどに文字数を削りました。内容としては自身の研究への愛の告白と、思い描いている未来を述べたのち、幼少期から現在に至るまでのことについて書きました。志望理由書は800文字の制限があり、私自身の理想の将来像となぜ筑波大学に進学したいのかという二点を要約して記述しました。実はこの志望理由書は出願書類の発送日前日に気に入らない点があったので、すべて白紙の状態から作り直し、発送日当日に完成してすぐ封筒にすべての書類を詰め込んで郵便局に駆け込んでいったということがあったりします。

二次試験（面接）

二次試験はどんな教授と話せるのかとワクワクで眠れませんでした。当日までは想定問答を考えるのが面倒だったので、基本的には自身が作成した自己推薦書と志望理由書を読んでいた。また、先人から何かしら助言をいただけないかと思い、AC入試で入学した人に連絡して相談に乗ってもらったり

していました。当日はつくばのホテルで一泊したのち、初めての遠足に心躍らせる小学生のような高揚感を抱きつつ、試験会場へと赴きました。面接の待合室は過去に受験した方々のブログなどではクラシック音楽がかかっており、受験生同士の交流もできたということが書かれていたため、非常に期待していました。が、当日は感染防止のために部屋の四隅に机といすが配置されており、窓全開で寒い上に全くほかの受験生と交流することができなかったのは残念であったなと思います。また、面接中ではマスクで面接官の表情が一切わからないというのもこれまでと異なる点として挙げられます。しかし、面接自体は私が期待していた以上に楽しいものでした。特に面接官の教授にFPGAとGPGPUについて楽しそうに語っていただけたのは一番印象に残っています。しかし面接直後は調子に乗りすぎたのではないかと不安になり、大学構内のスタバでしばらくうなだれていたのも今ではよい思い出です。

まとめ

AC入試で一番大切だったのはとにかく楽しむことです。おそらく楽しくなかったらそもそもAC入試は受けてなかったと思います。また、好きなことをとことん突き詰めて愛していると断言できるぐらい好きになっておけば何も怖くなくなります。

合格体験記

情報メディア創成学類国際科学オリンピック特別入試

概要

例年つくば市で開催される日本情報オリンピック（JOI）で「本選Aランク（上位20名）」の成績を収めるか、あるいは情報処理推進機構（IPA）の実施する「未踏IT人材発掘・育成事業」に採択されることで応募要件を満たす特別入試です。（ただし、令和6年度（令和5年度実施）入試からは、IPAの「未踏IT人材発掘・育成事業」に採択されることでの応募要件は外されます。「未踏IT人材発掘・育成事業」採択者はAC入試での受験のみとなります。）

筆記試験や共通テスト等は課されず、エントリーシートと15分間の面接のみで合否が判定されます。（余談ですが、mastではかの有名な落合先生を始め、数多くの学生が未踏事業に採択されています。みなさんも是非挑戦してみよう！）

入試形態

エントリーシートでは志望動機や大学で学びたいことを、A4用紙1枚の所定の様式に詰め込みます。予想以上に分量が少ないですが、記述内容に基づいて面接が展開されるため、思いの丈を解りやすくコンパクトに纏める必要があります。

そして迎えた試験当日。「AC入試試験場」との看板が掲げられた3B棟に赴き、面接に挑みます。試験官3人体制で行われるため、入室の瞬間こそ緊張が走りますが、いざ始まると非常に和やかな雰囲気です。面接は進行していき、「本日はどこから来たのですか？」といったアイスブレイクの質問に端を返し、本入試を受けようと思った動機や、大学で学びたい学問領域などに関して問答を行います。

AC入試にみられる志望理由や自己推薦書を要約する時間は設けられず、いきなり質問に突入します。時として面接官の先生から、想定外の質問や鋭いメスが入ることもあるかと思いますが、高校時代に取り組んできた内容を率直に答えれば大丈夫です。

国際科学オリンピック特別入試のいいところ

第一のメリットは、その特色ある入試形態にあります。これまでの実績が直接評価されて国立大学の

入試に挑めるわけですから、競技プログラミングやソフトウェア開発に取り組んできた人間にとって、これ以上に嬉しいことはありません。

加えて、入試時期が早いことも特徴です。筑波大学の総合型選抜は10月中旬に試験が行われ、11月上旬には合否発表を迎えます。つまり、合格から入学までに自由に使える時間が5ヶ月間も与えられるのです！ 残された高校生としての期間を楽しみつつ、さらには大学に向けた勉強を重ねたり、自分の興味領域を深めたり——この期間はきっと、各々にとって有意義かつ貴重な時間となるはずです。

むすびにかえて

名称だけ聞くと、なんだか凄そう、自分には手が届かなさそう……と難しそう印象を感じがちな国際科学オリンピック特別入試。しかしながら、そうした心配は無用です。むしろ、高校在学中から情報学に興味のある方々なら、十分に挑戦するチャンスと価値のある入試であると考えます。

筑波大学の情報メディア創成学類で、熱意や技術に溢れたみなさんをお待ちしています。

合格体験記

知識情報・図書館学類学類・専門学群選抜 [後期日程]

私は学類・専門学群選抜 [後期日程] で知識情報・図書館学類に入学しました。まずはkilsの後期日程を受けた経緯について、だらだら自分語りさせてもらいます。

自分は高校2年生の冬までほとんどと言っていいほど勉強しておらず、授業中は9割方睡眠、定期テストは一夜漬けで赤点スレスレ、といった体たらくでした。そんな自分でしたが高2の冬ともなると進路について真剣に考えるようになり、様々な大学を調べていく中で一橋大学に一目惚れし、そこを目指すことにしました。当初はとてそんなレベルを目指せる成績ではありませんでしたが、部活を引退して以降は死に物狂いで勉強し、結果的には不合格となったものの合格最低点-10点ほどまで学力を伸ばすことができました。落ちたら浪人するつもりだったためそのまま浪人し、猛勉強の甲斐あって成績は上昇し続けたものの、結果1点差でまたも不合格となってしまいました。余談ですが、受かる自信しかなかったため余りのショックに発表後数時間動けませんでした。2浪は考えていなかったため滑り止めの大学を探すわけですが、浪人自体無理を言って始めたため私大は考えておらず、国立後期で合格できそうな大学を探しました。自分は元々商学部または経済学部を志望していましたが、昔から情報系にもうっすら関心があり、調べたところ文系でも受けられる情報系学科が筑波大学にあったことから本学類の受験を決めました。自分が知識を受験するには中々複雑な経緯がありましたが、簡単に書くとこんな感じです。

ここからは具体的に後期試験の対策を書きます。といっても知識の後期は共通テスト900点小論文200点という得点配分のため、ほぼ共通テスト勝負と言っても過言ではありません。事実自分も小論文の過去問3年分をざっと眺めるくらいはしましたが、前述の通り前期不合格のショックもあって一度も演習はしませんでした。各科目について書くとキリがないので自分が特に伝えたいことを述べると、英語を読む速度は多読と音読の繰り返しと、文章の論理関係を意識することで確実に上昇するという、社会

科目の成績はほぼ確実に勉強時間に比例するから、直前まで反復すべきということです。とにかく共テで高得点を目指しましょう。

小論文は演習こそしなかったものの意識していた点はいくつかありました。一番意識していたことは、抽象的なこと→その具体例、原因となること→その結果、というようにすっきりした論理関係が伝わる文章を書くことです。よほど内容が薄くない限り、論理的に矛盾の無い文章が書ければ評価は高いでしょう。また「～へのあなたの意見を述べなさい」→「私は～については…と考える」というように設問への回答を端的に述べることも意識すべきです。

一番伝えたいことは、2年に渡り懸命に目指し続けた志望校に落ち不本意に入学したとしても、自分は入学以降生活面でも学習面でも毎日非常に充実しているということです。それだけkils、ひいては筑波大学が魅力的な場所だということです。だらだらとした文章でしたが、このことさえ皆さんに伝われば幸いです。受験は時に残酷なものです、この文章が少しでもみなさんの受験のモチベーションアップにつながれば幸いです。

合格体験記

知識情報・図書館学類 推薦入試

私がklisの推薦入試を受けようと思い立ったのは、高3の夏前のことだった。当時筑波大学を第一志望に大学受験の勉強を進めていたが、一応推薦についても調べてみたところこの入試を見つけた。klisの推薦入試は断トツで変わっているし、枠が大きい。klisでやりたいことのある方はぜひ受験してほしいと思う。何よりも、klisに一年生のときから所属するチャンスは現在限られている。私はklisへの気持ちを捨てられずこの入試を受けることにした。

こうして受験を決め、対策を始めたのは夏休み明けくらいからだった。まずは小論文。小論文の参考書を一冊買ってきて読み、あとは過去問を解いて高校の先生に添削をしていただいた。klisの小論文はあまり小論文感が無い。過去問を集めてこんな感じか〜と感触を探るのが良いと思う。ただ、推薦入試の過去問入手は難しい。もしこの入試を考えている中学生や高校1、2年生がいたら、ぜひその年の赤本を確保しておくことをお勧めする。ビブリオバトルについては、まず実際に行われているビブリオバトルに一度、コロナでオンラインになったときのことを考えオンラインで開催されているものに一度参加し、あとは自らの発表を磨くことに専念した。場数を踏むことよりも、自分の発表を分かりやすくする方が良いのではないかと判断したからだ。本を選ぶ際には、もう進路が決まった友人に付き合ってもらい意見をもらった（この友人はわざわざ私の使った本を読むことまでしてくれた…）。また、台本が完成してからは担任の先生や他の先生にも発表を聞いてもらった。ビブリオバトルは台本を作らないことが流儀なのだが、本番は頭が真っ白になるので何も考えなくても話せるくらい内容は決めておく方が良いと思う（私はこっそり原稿を作った）。

迎えた当日、私は実家が東京なので前泊せずに会場へと向かった。2週間前に下見に来ていたので、徒歩で迷わず会場に着いた。春日キャンパスに着くと、看板に注意事項や受験教室の地図が書いてあり、何人出願しているかが分かる。ここで出願数が分かった私は大変リラックスして試験を受けることができた（理由はお察しいただきたい）。試験はま

ず小論文があり、昼休憩を挟んでビブリオバトルをする。受験番号が早い方が早く試験を終えることができるので、なるべく早い番号を取っておくと良いと思う。ここで注意事項だが、ビブリオバトルを用いた面接といってもあくまで集団面接だ。面接のマナーは一通り確認しておいた方が良い。私はその確認をすっかり忘れていて、直前になって少し焦った。そしてビブリオバトルが終わるとそのまま解散となる。

こうして入試を終えたのは良いものの、私は入試直後にあった高校最後の期末試験中に胃腸炎になり3日ほど休むことになってしまった。今勉強をしている受験生の皆さんにおいては、体調にはくれぐれも気を付けてほしい。

合格体験記

知識情報・図書館学類 アドミッションセンター入試

AC入試での合格は、高校受験から敗北を続けてきた私にとって、貴重な成功体験であった。そもそも私は机の上の勉強が特別得意ではなかった。それにも関わらず、無策にかつ我武者羅に勉強し、連敗記録の更新を続けていた。ただ、私にも得意なことくらいはある。そこを汲み取ってくれるAO・AC入試という方式についてもっと早く調べ、選択肢に入れるべきであったと思う。いやむしろ、気付いていながら、無意識に選択肢から外していた当時の自分を引っぱたいてやりたいところである。

私は非常に極端な性格を持っている。一度スイッチが入ると、一つのことに全ての注意が向いてしまうのである。さらに最悪なことに、柔軟な思考がなくなり、完全に自分の世界に入ってしまう。これは一見悪いことではないようにも思えるが、間違った方向にのめりこんでしまえば、修正が効かなくなってしまうのである。この厄介な性格のせいで、無駄な勉強に意味があると信じて疑わず、豪快に空回りをしてきた。自分の土俵でないことに気付いていながら…。

その結果返ってくるのは当然、不合格の通知。私は挫折を抱えながら、唯一合格した関西の大学へ入学することになった。そこは生物系の大学であった。正直なところ生物への興味は薄れていたため、並行して様々な学問に積極的に挑戦していた。しかし、課題・レポートの量が非常に多く、自分の時間が圧迫され、気付くとそこには生物のみを勉強する自分がいた。努力しているにも関わらず、時間の流れとともに自然と、理想と異なる自分へと向かっていたのである。そう気付いた時には、再びスイッチが入ってしまったのである。

スイッチが入ったのはいいが、さすがの自分でも学力勝負は無理だろうと思い、まずは受験に関する情報収集を行った。そこで目を付けたのが、以前から気になっていたAO・AC入試である。そしてどの程度の提出資料のクオリティが必要か分析を行った。私の強みは、大学での学びによっても獲得されたデータ処理能力であると自負している。そのため、その強みを活かした研究を実施し、論文を作成

することにした。論文形式に拘ったのは、ほとんどの人が採用していない方式により差別化を図るためである。研究内容については割愛するが、200本以上の論文・書籍に目を通したため、数カ月で客観性の高いものに仕上がったと思う。

面接に関しては、そもそも得意ということもあり、3日で対策を終わらせた。面接を組み立てる時に意識したのは「いかに面接官の印象に残すか」である。服装・髪型も、フレッシュな高校生と差別化を図るべくスーツ・ビジネスヘアで固め、面接中には、追加で資料を渡すという大学側から禁止されていることをしてみたりもした。そもそも、面接とは客観的な判断ができないものであると思う。他の受験生も当然対策はしているわけで、たかだか数十分で大きな差が出ることは考えにくく、結局は主観的な判断に頼らざるを得ないだろう。そのためこのような戦略で挑んだのである。

ここまで短期間で合格を勝ち取ることができたのは、データ分析や面接という、自分の土俵で勝負できたことにある。また、前述した極端な考えを持っていたためでもあり、その点においても、この受験方式こそ最も自分に合ったものであると思う。

受験生の皆さんには、常に情報収集を行うことを心掛け、AO・AC入試は自分には縁が無いと決めつけないでほしい。それは、特別なスキルの無い私が、自分の土俵に持ち込み、大学生活を送りながら（履修科目数は制限したが）短期間で合格できたためである。多様化する受験方式の中で、盲目的に一般受験を選ぶのは非常にもったいない。むしろそれ以外で合格を勝ち取る方が、稀有な才能があると評価され、希少価値という点においても奨励されるべきものであると思う。

自分の土俵でないなら、さっさと逃げてこっちで勝負するのはどうだろうか？

生活体験記

春日宿舎

春日宿舎はmastとklisが位置する春日エリア内にある、5階建ての建物です。ここでは実際に春日宿舎がどんなところなのか、どんな生活をしているのかを紹介したいと思います（ただし筆者が1号棟（女子棟）に住んでいるため、2号棟についてはあまり把握していないということだけご了承ください）。

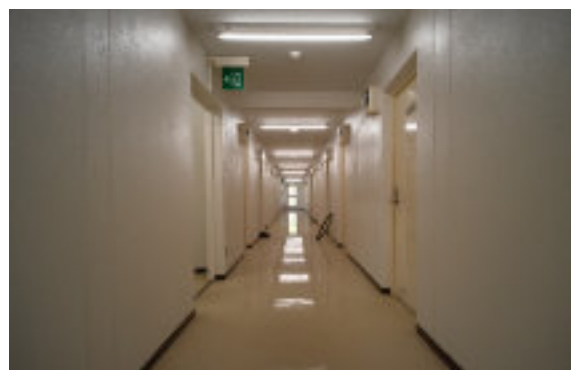
まず部屋の広さは約10平方メートルです。アパートなどと比べると狭いですが、収納などをうまくやればそこまで不便ではないと思います。また部屋にはベッド、机、椅子が備え付けられています。そのため引っ越しの際にそれらを持ち入れる手間が無かったのは楽でした。ベッドは若干高さがあるので下に収納ができますが、寝てるときに落ちたらめっちゃくちゃ痛いです。窓は大きいです。140cm×130cmくらいあります。カーテンを開けるとしっかり日が入るので気持ちいいです。音に関してはドアのすぐ外が廊下だからか、廊下の音は割と聞こえますが、隣の部屋の音などが聞こえることはほとんどないので、その点は大丈夫だと思います（大声で喋ったり歌ったりしない限り）。

春日宿舎ではキッチン、トイレ、洗面台、大浴場、コインシャワー、洗濯機、乾燥機などが共用です。大浴場は無料で、17時から22時まで使えます。これは他の宿舎には無いらしく、春日宿舎の特権ですね。また宿舎では100円玉が非常に重要になります。洗濯機、乾燥機、コインシャワーは100円玉が無いと使えません！宿舎に入居予定の方は、今から普段の買い物などで100円玉を生み出す方法を考えておくと良いかもしれません。また春日宿舎には談話室という部屋があって自由に使うことができます。勉強したり話したりするのに使われています。自分たちの部屋は友達を何人か招くには狭いということもあるので、談話室で集まっている人たちもいます。

気になるお値段のほうですが、宿舎費は月額19,615円です（2021年7月現在）。光熱費は宿舎費と別ですが、基本料金は大学が負担してくれるため安いです。しかもキッチン、トイレ、洗面台、お風呂は共用なので、ガス・水道代は請求されません！電

気のみです！これは個人的に宿舎の最大の利点と言っても過言ではないと思っています。

ここまで春日宿舎の話をしてきましたが、個人的にはここでの暮らしを気に入っています。筑波大学には他にも宿舎がありますが、実は春日宿舎が一番環境がいいと言われています。また春日エリアにあるので本学は遠いですが、駅が近いです。なので買い物なども楽だと思います。ぜひ春日宿舎での暮らしも検討してみてください！



生活体験記

GlobalVillage

Global Village (通称グロビ)は留学生とのシェアハウス型宿舎です。このような形の宿舎は珍しく、どんな生活をしているのか気になる方も多いのではないのでしょうか。今回は立地、設備、ルームメイトの3つの面から私が実際に生活して感じたことを書きたいと思います。

まず、立地についてです。グロビは本学と春日エリアのちょうど真ん中あたりに位置しています。そのため、対面授業にもサークルにも自転車で10分程度で行くことができます。また、近くにスーパーカスミ筑波大学店があるのも便利なポイントです。カスミは各種カード決済のみで現金が使えませんが、一人暮らしの大学生向けに欲しいものが揃っています。留学生が多いからか、ハラルフードや輸入菓子が豊富なのも見ていて楽しいです。

次に、設備についてお話しします。グロビは築浅で宿舎と比べるとだいぶ綺麗です。外観は住宅街のようで、夜でも街灯が多く明るいです。一人暮らしで虫が心配な方もいると思いますが、グロビでは滅多に出ません。個室にはエアコン、姿見、壁掛け時計などがついていて、必要最低限の家具は揃っています。食器用洗剤やゴミ袋はユニット内で購入する必要がありますが、トイレトペーパーやハンドソープは支給されます。

最後にルームメイトについてです。ルームメイトについては、皆さんの想像と大きく違う点があると思います。先に言っておきますが、人間関係はユニットや同居人ごとに異なります。あくまで私の体験談です(が、他のユニットでも似た状況だと聞きます)。まず、ユニットメンバー間での交流はほとんどありません。コロナの影響もありますが、みんなで時間を合わせて共有スペースで一緒にご飯を食べたり談笑したりすることはまずないです。基本的に皆、個室にこもっています。次に、英語をほとんど使わなくても生活できる、ということです。グロビでは4人または5人で1ユニットが構成されていますが、たいてい留学生は1人だけです。そして留学生の方が日本語を話せることも少なくないようです。実際、私のユニットでも5人のうち1人が中国人

の先輩ですが、基本的に日本語で話しかけてくれます。そして最後に、共同生活だからこそそのデメリットもあります。共用の流しが洗い物でいっぱいになっていたり、大声の電話が聞こえてきたり、掃除の分担を守らなかったり…。その辺りを許容できるかどうかで住み心地は変わってきそうです。繰り返しになりますが、人によります。

個人的にはユニット内での交流が少ないことは残念ですが、それ以外は満足しています。同居人次第のところも大きいですが、良い経験になると思いますよ！ぜひグロビへの入居もご検討ください！

生活体験記

アパート

僕は春日二丁目のアパートに住んでいます。

アパートを選ぶ際の主な決め手として家賃と立地が挙げられます。私は家賃3万円以下を条件としていました。3万円となると間取りはほとんど変わらないので春日二丁目の2.6万円のアパートに決めました。

春日二丁目を選んだ理由としては筑波大学の春日エリアとつくば駅に近いからです。

筑波大学の春日エリアには徒歩5分ほどで行くことができます。近さで言えば宿舎といっても過言ではないでしょう。

つくば駅のトナリエつくばスクエアには飲食店やファッションブランドが入居しており、気軽に買い物に行くことができます。今年の5月にトナリエクレオにオープンしたロピアというスーパーで食品の買い物を済ませることもできます。

他に安いスーパーとして学園の森3丁目のトライアルがあります。トライアルには食品だけでなく生活用品や雑貨も売っており、学生御用達のスーパーです。一見距離がありそうに見えますが、自転車を走らせると10分もかからずに到着できるほどの距離です。

また、つくば駅のファミリーマートをはじめとして、つくば北大通り店のセブンイレブンやつくば荻間店のローソンなど、すぐ近くにコンビニがいくつもあるので、これも春日二丁目の利点だと思われま

す。当たり前のことですが、アパートは実家を凝縮したような場所です。何が言いたいかというところの距離が近いのです。

トイレに行くにも5歩歩けば行けますし、お風呂に入るタイミングを窺う必要もないですし、何か食べたいと思えばすぐそこにある冷蔵庫を覗けばいいのです。

生活をとても楽に過ごすことができます。

また、アパートの利点に一人の時間が非常に増えることがあります。

実家と異なるのはもちろんのこと、宿舎とアパートの大きく異なる点はこれだと思えます。宿舎では

必ずと言っていいほど同じ宿舎に住む人と関わりがあります。共用キッチンであるために、共同で料理を作ったり気軽に部屋に遊びに行くことができます。

ですがアパート暮らしではそのようなことは一切なく、途端に人とのかかわりが減ります。コロナ禍以前ではアパートに人を呼んで集まる、ということができたかもしれませんが現状では頻繁に集まることもできません。

その点がアパートに住むことのメリットであり、デメリットでもあると感じています。一人で過ごすことが得意でない方は宿舎に住むことをお勧めします。

僕がアパートに住むうえで心配していたことの一つに隣人トラブルがありました。しかし、実際に住んでみるとそのような心配は一切必要ありませんでした。

隣人と関わることはほとんどなく、ゴミ出しや外出時に見かけたときに会釈する程度です。夜中も隣人がうるさくて眠れないどころか、むしろ僕が少しうるさくして文句を言われるかを感じるほどで、快適に過ごすことができます。

夜中は春日二丁目住宅街であるということもあってかなり静かで、心地よい睡眠をとることができます。

僕は春日二丁目のアパートを大変気に入っているので大学卒業するまで住む予定です。

生活体験記

自宅通学（宅通）

私は埼玉から1時間30近くかけて自宅通学しています。宅通をして感じたメリットとデメリットについてお話します。

メリットの1つ目は親元で暮らせるので楽だということです。一人暮らしだと家事を全て自分でやらなければいけませんが、実家暮らしなら親の協力の元で生活できます。したがって勉強や趣味、バイトに高校生の時とあまり変わらない感覚で没頭できるのは大きなメリットでしょう。

2つ目のメリットは、地元の友達とたくさん関わられることです。つくばに住んでしまうとつくばエクスプレスの値段の高さから地元に戻るが減るので、地元の人間関係は薄れると思います。

3つ目は余計な誘いを断りやすいということです。宅通なのでつくばを早めに出ないと帰りがとても遅くなってしまいます。サークルや友達、先輩からの誘いを断りたいとき「宅通だから」が断る理由になります。（笑）

4つ目は金銭面です。定期代は高いですが、私の場合は一人暮らしする費用を考えたらず宅通の方が安かったです。

次に宅通をして感じたデメリットについてお話します。

まず1つ目は友人関係を発展させにくいことです。学生のほとんどがつくばに住んでいるので、つくば住みの人どうして集まる機会が多いように感じました。通学時間と値段からつくばでの集まりに参加しづらいため、つくばに住みたいと思うこともありました。しかし宅通の人もサークルなどで自主的に大学に行くチャンスを作ることで友人関係を広げることが可能です。

2つ目は通学時間が長いので疲れるし退屈だということです。私の場合、時間によっては座れることが多いのでそこまで苦勞してません。また通学中にオンデマンド授業を受けたり本を読んだりして有効に時間を使っています。

大学に入学して周りの環境が大きく変わり、わくわくする一方で疲れてしまうこともあります。そんな時に住環境まで変わると負担も増えるでしょう。

自宅から通えるなら、一旦は自宅から通うのもいい選択だと思います。平日はつくばに住んで週末は家に帰る人も何人か見たことがあるので、やり方は人それぞれです。自分が過ごしやすい方法を模索して、充実した大学生活を送れることを祈っています！

かすがらいふ2021年夏号

発行者

筑波大学 情報学群
情報メディア創成学類学類長／知識情報・図書館学類学類学類長

編集

2021年度かすがらいふ編集委員

Special Thanks

情報メディア創成学類生の皆様
知識情報・図書館学類生の皆様
情報メディア創成学類の教職員の皆様
知識情報・図書館学類の教職員の皆様
図書館情報エリア支援室の皆様
春日エリアクラス代表者会議
昨年度をはじめとする過去のかすがらいふ編集委員の皆様
その他、ご協力いただいた全ての皆様